

ICTを活用した医療介護連携シンポジウム  
令和5年11月19日（日）

# まめネット利用による 多職種連携の現状と今後の展望

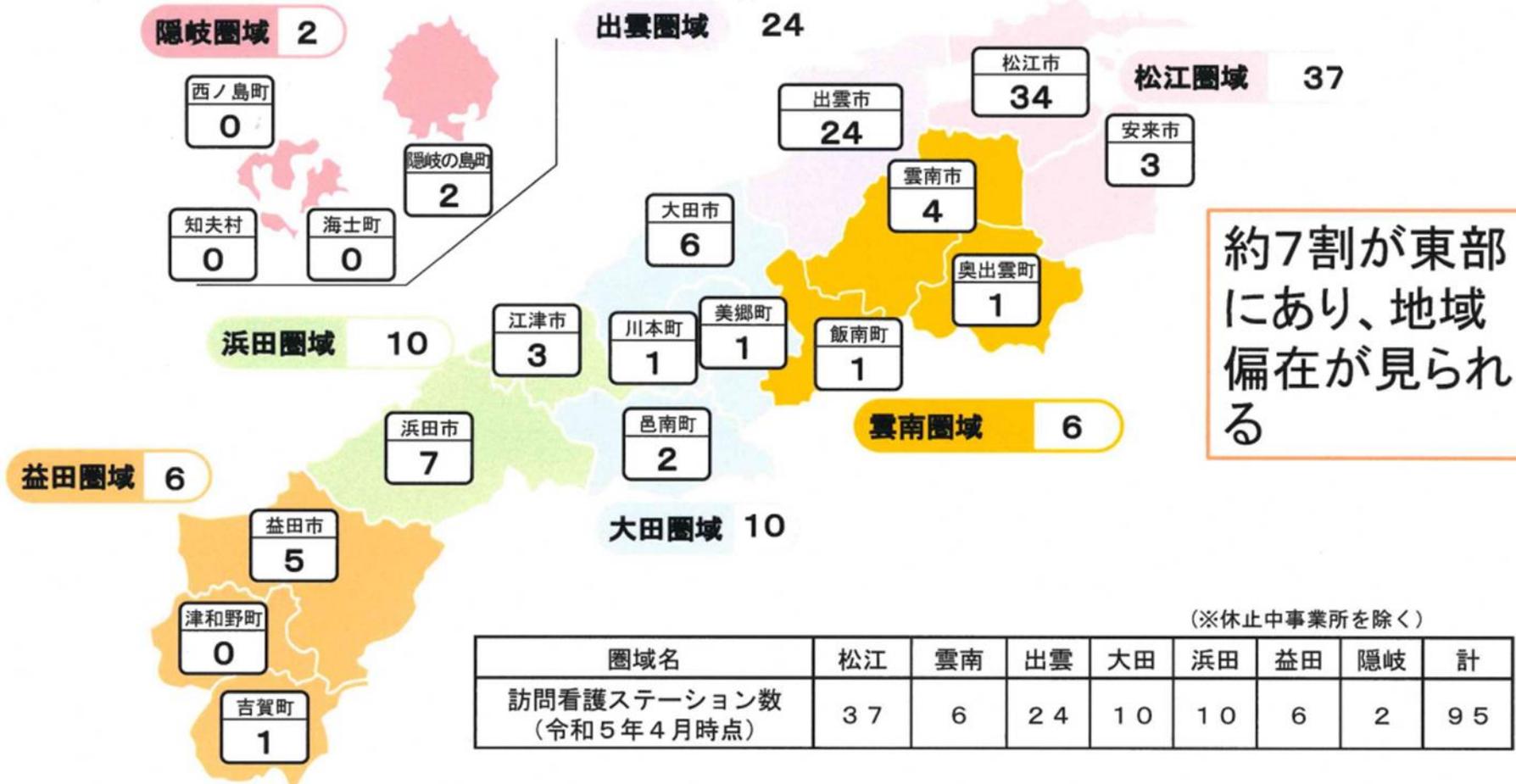
島根県看護協会

訪問看護ステーション運営アドバイザー

安田 和子

# 圏域別訪問看護ステーション数

## 圏域別訪問看護ステーション数（令和5年4月時点）



# 訪問看護の役割

地域住民の健康の維持・回復、生活や  
穏やかな人生の最終段階を支える役割

医療機関・多職種と協働しケアチームの一員  
として質の高いケアの提供をする

# 多職種連携のための情報共有の手段

訪問・電話・FAX・郵送

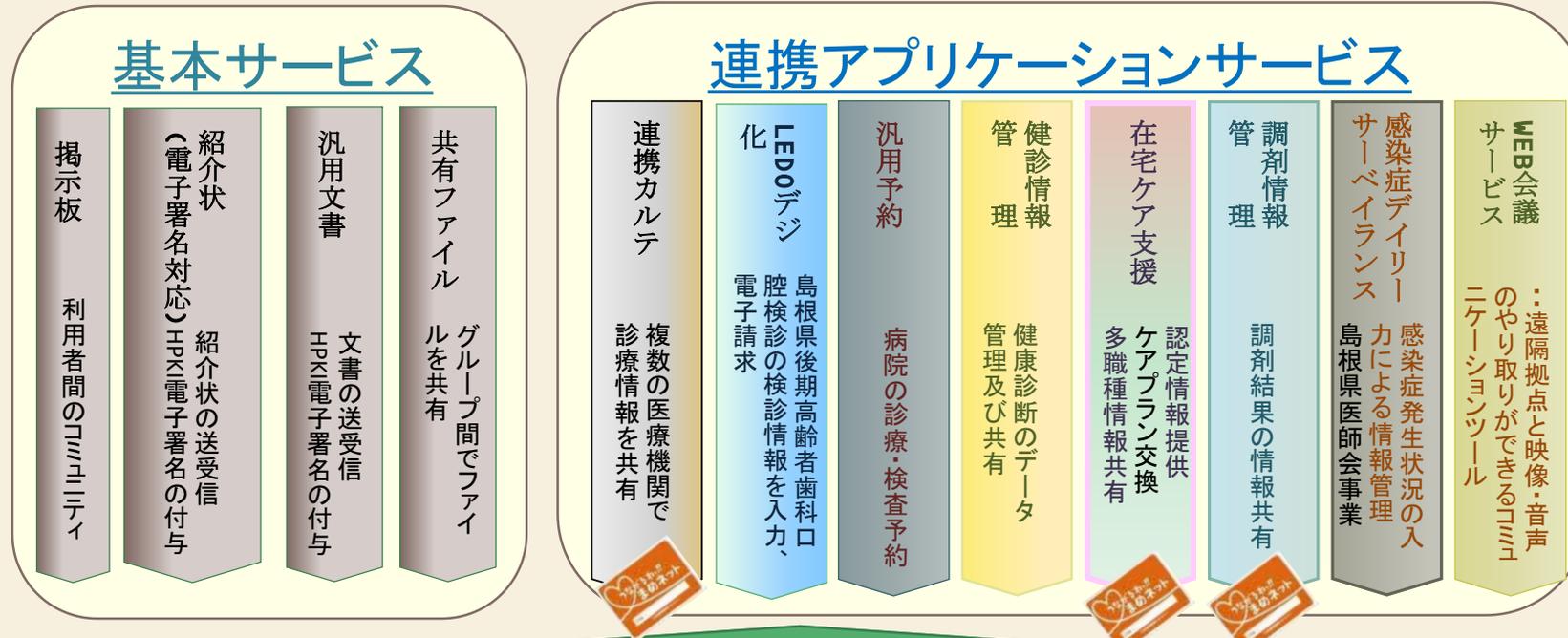


効率的・効果的

**まめネット** ・ 訪問・電話・FAX・郵送

# まめネットの概要

特徴：ネットワークとアプリケーションの二層構造



## 基盤情報を活用

**ネットワーク基盤**：IP-VPN、Ipsec-IKE

**システム基盤**：施設管理・利用者管理・患者管理

インターフェースを公開

# 連携アプリケーションの概要

## 連携カルテサービス

医療機関等に分散している患者の診療情報について、患者の同意を得た医療機関  
 (病院・診療所・調剤薬局・訪問看護等) がまとめて閲覧することができるサービス

### SOA

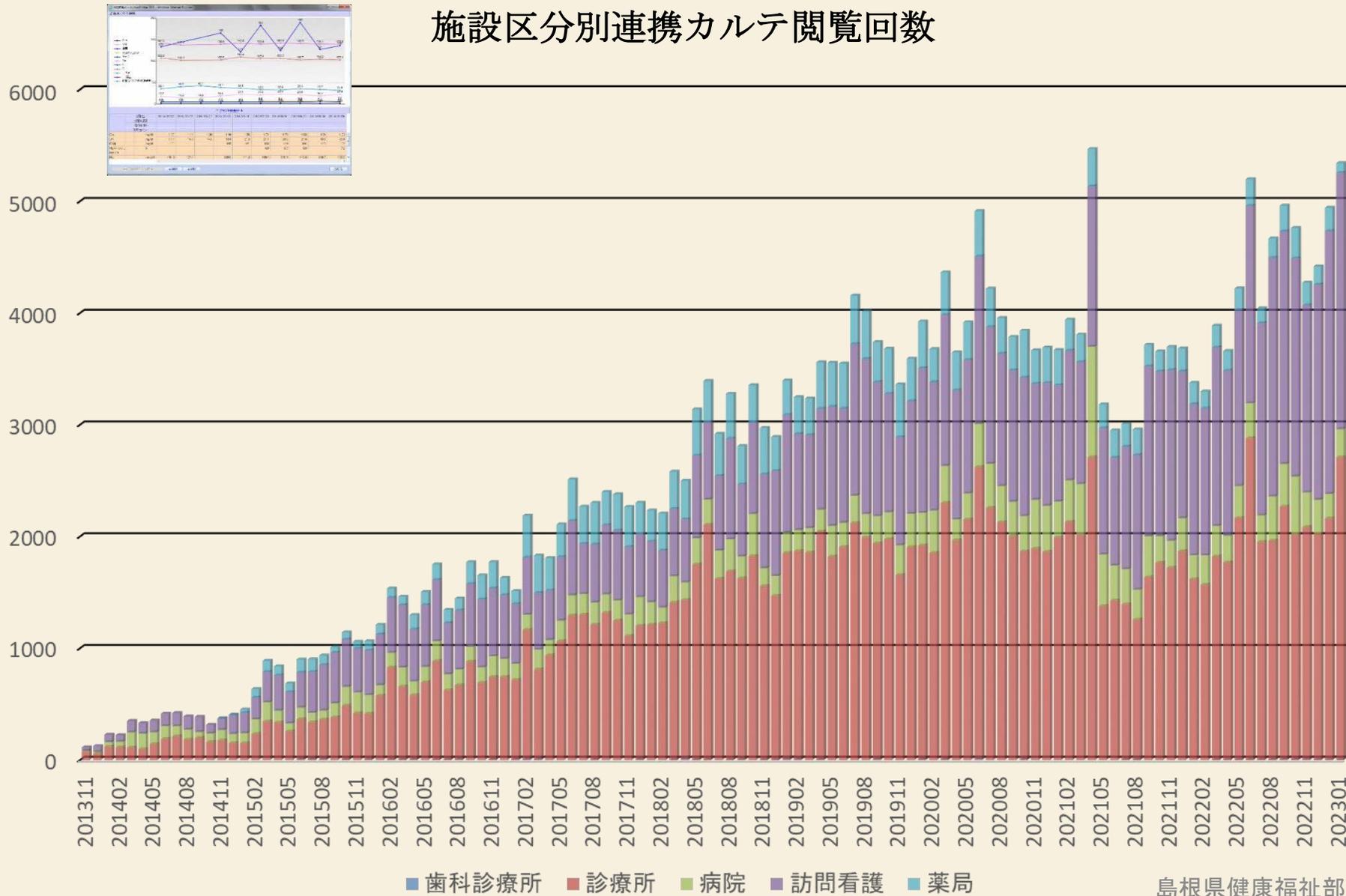
- ◎処方
- ◎注射
- ◎検体検査
- 放射線検査
- 生理検査
- 内視鏡検査
- その他の検査
- 手術
- 透析
- 輸血
- 看護記録
- 調剤 (薬局)
- 健診
- その他

◎プロフィール、病名、◎アレルギー、◎検査結果、検査レポート

The screenshot shows a web-based interface for a medical information system. At the top, there are fields for '施設患者ID' (999999999) and '患者氏名'. Below this is a navigation bar with tabs for 'カルテ', 'プロフィール', '病名', and 'アレルギー'. A search bar and a '共通' button are also present. The main area is a calendar grid with columns for dates from 9/21 to 10/14. The grid is divided into two sections: 'A病院' (Hospital A) and 'B診療所' (Clinic B). A red box highlights the 'SOA' (Shared Open Access) section in the left sidebar, which includes '処方' (Prescription), '注射' (Injection), '検体検査' (Lab Test), '放射線検査' (Radiology), '手術' (Surgery), '看護記録' (Nursing Record), and 'その他' (Other). A black bracket groups the 'A病院の情報' and 'B診療所の情報' sections. The right sidebar shows a list of medical events with details such as date, time, department, and staff.

# 参考データ

## 施設区分別連携カルテ閲覧回数



# 連携カルテサービス利用の効果

- ①訪問看護実施前に、外来受診時の**病状説明・治療・検査結果・処方内容**等の情報収集により、治療方針・病状の確認ができ治療効果を高める看護の提供ができ療養生活の安定に繋がる
- ②入院期間中には**病状説明・治療・検査結果・経過記録**から、退院に向けての訪問体制や、追加治療に対しては早期に技術習得するなど継続看護の準備ができ、スムーズに在宅療養への移行ができる

## 1か月間のサービス利用実績

地域	紹介状送信			予約		連携カルテ閲覧回数					調剤	
	病院 (内HPKI)	医科 (内HPKI)	計 HPKI計	診療	検査	病院	医科	薬局	訪看	計	情報閲覧	後発品変更
安来												
松江		119 (54)	119 (54)	4	12	8	60	3	21	92		
雲南						1	2		11	14		
出雲	292 (10)	262 (62)	554 (72)	191	43	159	1,534	83	2,230	4,006	10	14
大田				10		30	430		111	571		67
江津		20 (20)	20 (20)			17	321		31	369		
浜田	1		1			1	449		226	676		
益田						81	66		177	324		
隠岐	66	17	83			16	5			21		
県外												
計	359 (10)	418 (136)	777 (146)	205	55	313	2,867	86	2,807	6,073	10	81

# 連携カルテサービス利用の課題

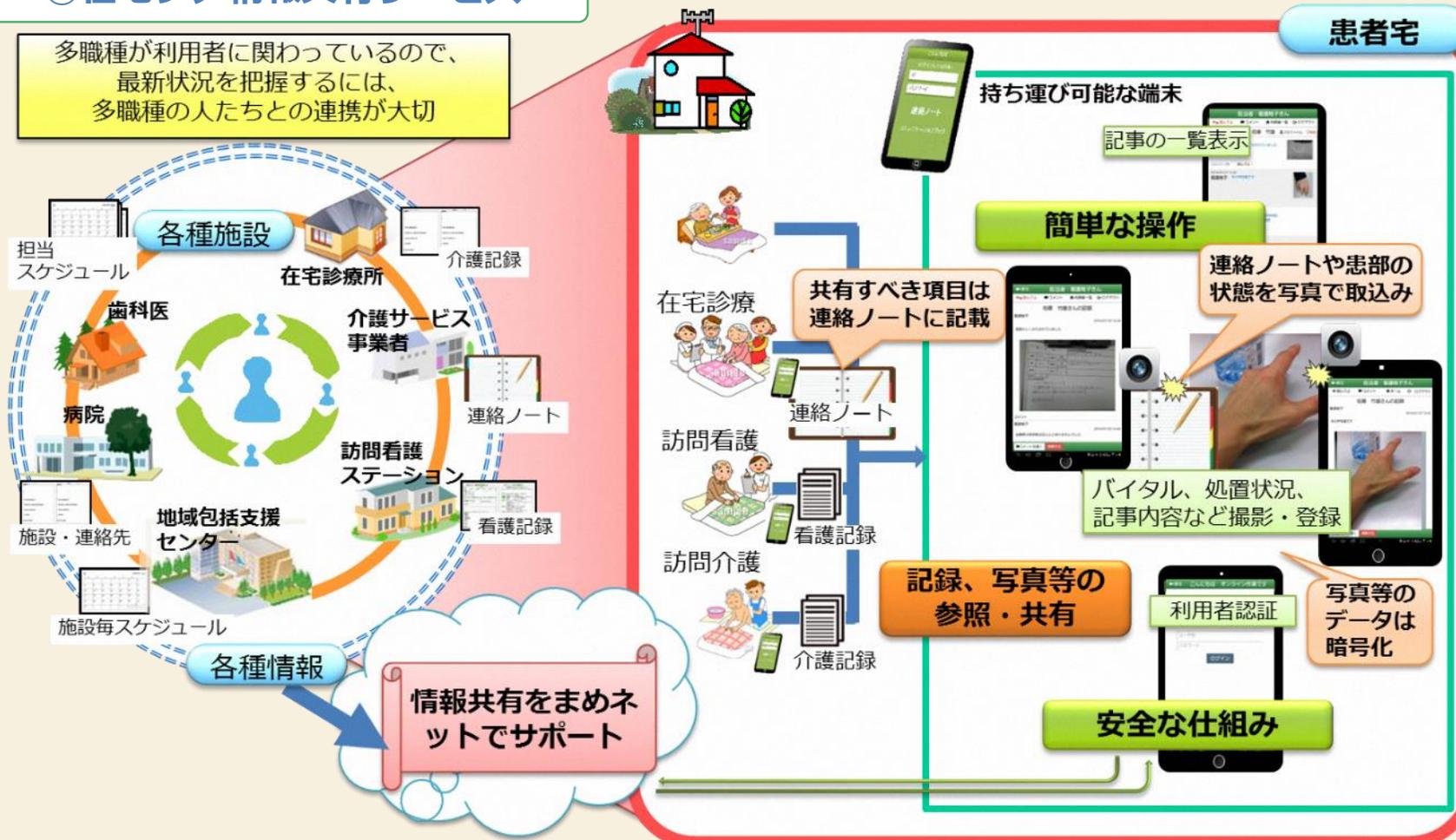
- ①訪問看護ステーションにおいては**まめネット施設登録数・連携カルテ閲覧回数に地域差**がある。利用効果について普及していく必要がある
- ②医療機関からの**診療情報開示内容**には**ばらつき**がある。一定の情報開示により利用効果を高めることができる

# 連携アプリケーションの概要

## 在宅ケア支援サービス（情報共有サービス）

### ③在宅ケア情報共有サービス

多職種が利用者に関わっているので、最新状況を把握するには、多職種の人たちとの連携が大切



#### 【活用状況とメリット】

- 在宅患者宅へ訪問する前に、状況確認ができる為、質の高い介護サービスの提供が可能
- 適時適切な情報共有により迅速な処置が可能

# 活用方法：医師等への連絡・報告

◆電子連絡ノート機能を使えば、医師やチーム関係者への連絡・報告が迅速に

⇒タブレットにより、患者宅から連絡・報告が可能に

⇒写真や動画を添付すれば、情報伝達が正確かつ詳細に



# 在宅情報共有サービス利用の効果

- ①主治医を中心に多職種が訪問時の病状や生活状況について伝聞ではなく、**同じ内容を正確にチーム間で共有**でき地域包括ケアの充実につながる
- ②訪問看護実施前に利用者の最新情報や主治医の治療方針を把握することで、**状態予測や様々な備え**をして訪問することでの的確な看護ができる
- ③皮膚トラブル時等には**画像で情報共有**することで、より正確な情報伝達ができ**医師よりタイムリーに指示**が得られ治療開始ができる。同時にケアマネージャー・介護サービス・理学療法士・栄養士・薬剤師・福祉用具等と早期に連携ができ症状改善につながり、利用者のQOL向上となる

## 1 か月間のサービス利用実績

地域	在ケア					共有ファイル								
	認定	ケアプラン 送受信	在宅情報共有			ファイル登録				ファイルダウンロード				
			患者 登録	ハイ タル	連絡 ノト	病院	訪看	その他	計	病院	訪看	その他	計	
安来	82													
松江	491	41	3		5	2			2	3		2	5	
雲南	211		1	3	6	3		19	22	37		4	41	
出雲	383	1,110	21	861	1,921	11		2	13	45		1	46	
大田	110	133			8									
江津	123		8	1,759	21						3		3	
浜田							2		2		8		8	
益田														
隠岐			5		59									
県外														
計	1,400	1,284	38	2,623	2,020	16	2	21	39	85	11	7	103	

※ケアプランは送信と受信を合計した件数を計上

# 在宅情報共有サービスの課題

- ①訪問看護実施日には、**訪問看護記録**と在宅情報共有のための**タブレット入力**をしており、看護記録の重複となり非効率の状態である
- ②在宅情報共有サービスの**患者登録数は少ない**。利用効果について普及していく必要がある

# まめネット利用による効果

- ①在宅を支えるチーム（地域包括ケアチーム）は質の高いケアの提供ができる
- ②在宅療養者にとって病状の安定・生活の維持・QOLの向上につながる
- ③FAX・電話・訪問による連絡調整の回数が減り、時間の短縮・業務の効率化が図れる

# 今後の展望

- ①医療情報ネットワークにより、県内また全国どこにいても医療機関からの診療情報開示があり、利用者が望む場所で治療や生活ができる
- ②連携カルテサービスにおいて、病院と訪問看護ステーション双方が情報開示することで、質の高い医療・看護の提供ができる
- ③訪問看護の電子カルテと在宅情報共有サービスの連動ができ、業務の効率化が図れる
- ④訪問看護ステーションのIT化が加速し、災害時等においても業務継続ができるためにステーション間の情報ネットワークの構築ができる